

東臼杵南部地域の普及活動（普及活動月報）

令和7年9月 東臼杵農林振興局
(東臼杵南部農業改良普及センター)

目次

- I 管内農業・農村の出来事や新たな動き (P 2)
 - 1 【全域】県立農業大学校生が普及センターでインターンシップを実施
 - 2 【美郷町】みやざき地頭鶏食育教室が開講
 - 3 【日向市】へべす感謝祭が開催

- II 主な普及指導活動等の取組
- 1 プロジェクト（総合、専門）に関する普及活動 (P 3)
 - [総合：担い手確保・育成、雇用労力の確保、中山間地域づくり 等]
 - [専門：茶(中山間)、肉用牛繁殖(若手)、冬春ミニトマト、ほうれんそう(椎葉)、へべす、スイートピー 等]
 - 1 【門川町】農業経営改善に向けた農業経営改善計画書作成支援
 - 2 【全域】日向地域営農推進連絡会議「雇用労力」担当者会議を開催
 - 3 【日向市】3件の就農相談に対応
 - 4 【日向市・門川町・美郷町】冬春ミニトマト生産者全戸巡回を実施

- 2 プロジェクト（総合、専門）以外の普及活動(一般活動) (P 4～5)
 - 1 【全域】日向地区収入保険推進協議会推進会議が開催
 - 2 【全域】みやざき地頭鶏農場巡回を実施
 - 3 【美郷町】普通期水稻新品種候補系統「南海189号」の現地検討会が開催
 - 4 【日向市】JAみやざき日向地区本部施設胡瓜専門部会で先進地視察研修を実施
 - 5 【椎葉村】夏秋ミニトマト優良園地で現地検討会を開催
 - 6 【椎葉村】春の七草作付け検討会が開催



東臼杵南部農業改良普及センター
ホームページ

I 管内農業・農村の出来事や新たな動き

1 【全域】県立農業大学校生が普及センターでインターンシップを実施

22日から26日にかけて、県立農業大学校生2名が普及センターでインターンシップを行いました。

インターンシップでは、普及指導員に帯同し、農業現場での普及活動の状況や座学による普及センターの業務内容など、農業の現場や普及センターの仕事について知ってもらう良い機会となりました。

インターンシップに参加した2名の今後の活躍を期待しています。



【インターン生と現地巡回】

2 【美郷町】みやざき地頭鶏食育教室が開講

5日、関係者8名と地頭鶏生産者2名が参加し、美郷町立西郷義務教育学校の5、6年生18名を対象に、「みやざき地頭鶏教室」が開講されました。

児童たちは初めに、みやざき地頭鶏事業協同組合の山下参事からみやざき地頭鶏の基礎的な知識や県内での生産状況について説明を受け、その後、目の前で生産者が炭火焼きにする様子を見学し、全校児童110名が試食しました。

児童たちからは、「天然記念物の地頭鶏を品種改良してみやざき地頭鶏ができた歴史を初めて知り、興味を持った」、「柔らかくて美味しい！また食べたい！」等の反応があり、みやざき地頭鶏の魅力や地産地消について、楽しく学べる有意義な時間となりました。



【みやざき地頭鶏誕生の歴史について説明を受ける児童たち】

3 【日向市】へべす感謝祭が開催

6日、JA八菜館特設ブースで、生産者5名、関係者4名、日向高校の生徒6名(ボランティア)が参加し、へべす感謝祭が開催されました。

コロナ禍後、初の開催でしたが、へべすの詰め放題や購入を目的に多くの消費者が訪れ、盛況でした。

今回の感謝祭は、JAみやざき日向地区本部平兵衛酢部会で策定した産地戦略ビジョンの今年度の取組として実施されました。実施に向け、ビジョン班員(生産者、関係者)で協議を重ねたことで、へべすの魅力を消費者にPRする良い機会となりました。



【へべす感謝祭】

Ⅱ 主な普及指導活動等の取組

1 プロジェクト（総合、専門）に関する普及活動

[総合：担い手確保・育成、雇用労力の確保、中山間地域づくり 等]

[専門：茶(中山間)、肉用牛繁殖(若手)、冬春ミニトマト、ほうれんそう(椎葉)、へべす、アイドール 等]

1 【門川町】農業経営改善に向けた農業経営改善計画書作成支援

3日に、門川町役場で認定農業者4名の農業経営改善計画更新申請に向けた作成支援を行いました。

前回の計画目標と現状を確認し、今後5年間の経営発展に向けた改善計画の検討と、新たな目標設定を行いました。

生産コストが上昇する厳しい情勢ですが、安定的に所得確保するための戦略を検討する有意義な場となりました。

2 【全域】日向地域営農推進連絡会議「雇用労力」担当者会議を開催

9日、普及センターで、関係者14名の出席のもと、日向地域営農推進連絡会議・雇用労力担当者会議が開催されました。

会議では、県担い手農地対策課および外国人材派遣会社から、本県農業分野における労働力の現状や特定技能外国人材派遣の取組について説明があり、普及センターからは今年度開催予定の各種農業者研修計画の紹介を行いました。

さらに、各市町村・JA担当者から雇用労力確保に関する課題の報告があり、活発な意見交換が行われました。

今後は、関係者と連携を図りつつ、「農業人材ベストミックス研修」を入郷地域(10/18)と沿海地域(11/4)に分けて開催するなど、農業分野における雇用労力の確保に努めます。

3 【日向市】3件の就農相談に対応

9月は、日向市で3件（新規2件、継続1件）の就農相談があり、日向市およびJAと連携して対応しました。

新規相談2件は、いずれも果樹経営の開始に向けた相談で、承継に関する情報提供や補助事業の説明を行いました。

継続相談については、施設野菜での就農を目指し、農地や施設整備に関する検討を進めました。

今後も、相談者の状況に応じた支援を継続して行っていきます。

4 【日向市・門川町・美郷町】冬春ミニトマト生産者全戸巡回を実施

8日（美郷町）、10日（日向市）、11日（門川町）、冬春ミニトマト専門部会長や関係者7名が参加して、定植後の全戸巡回を実施し、初期生育の確認や病虫害の発生状況を確認しました。

令和8年産の定植は7月末から始まり、8月末まで行われました。定植が早かったほ場では、収穫が始まっています。

高温の影響により、花質の低下や着果不良等が一部で見られましたが、生産者は遮光や摘花等を行い、安定した品質、草勢となるよう工夫した管理を実践していました。



【定植後のミニトマト】

2 プロジェクト（総合、専門）以外の普及活動（一般活動）

1 【全域】日向地区収入保険推進協議会推進会議が開催

19日に、JAみやざき日向地区本部農家経営支援センターで、収入保険推進協議会推進会議が開催されました。NOSAIから、日向地区管内の収入保険加入状況と支払状況について報告がなされました。

近年、大きな気象災害など、農業経営に大きな影響を及ぼす事案が多発しているため、加入件数も徐々に増えており、経営の安定化を図る上でも保険制度が重要であることを関係機関・団体で再確認しました。

2 【全域】みやざき地頭鶏農場巡回を実施

26日、管内のみやざき地頭鶏生産者4戸の農場を対象に、みやざき地頭鶏事業協同組合、JAみやざき本店、県（振興局、家畜保健衛生所、専技センター、普及センター）の10名が連携して、合同で巡回を実施しました。

巡回では、農場の飼養管理及び防疫対策状況を確認し、農場の課題について共通認識を図る機会となりました。生産者からの聞き取りでは、近年の猛暑での暑熱対策強化、今後の農場経営の方向性等を把握することができました。また、寒冷対策に課題のある農場に対し、保温資材を活用した実証試験を行うことになりました。

今後も関係者と連携して農場の課題改善に向けて支援していきます。



【みやざき地頭鶏生産者に聞き取りをする関係者】

3 【美郷町】普通期水稻新品種候補系統「南海189号」の現地検討会が開催

16日、生産者組織であるひむか米振興協議会主催の現地検討会に、生産者4名と関係者7名が参加し、普通期水稻の新品種候補系統である「南海189号」の生育状況を検討しました。

普及センターからは、「南海189号」の特性及び、今年度美郷町内に3か所設置している展示ほの調査結果について説明を行いました。生産者からは「病気が少ないことや、草姿が良く収量確保の見込みもあることから作付けを検討したい」また、「試食会で実際に食べてから判断したい」という声が聞かれました。

今後は収量や品質・食味の調査を行い、結果は関係者や生産者と共有し、次年度以降の作付けに向けて準備を進めていきます。



【「南海189号」の現地検討会】

4 【日向市】JAみやざき日向地区本部施設胡瓜専門部会で先進地視察研修を実施

16日から17日にかけて、管内のきゅうり生産者5名、関係者4名で、データ活用の先進地である佐賀県のきゅうり生産者は場を視察しました。

佐賀県では、高軒高ハウスによる抑制栽培と半促成栽培の2作型で栽培が行われており、収量30～40 t/10aを目標にデータ活用による栽培管理を実践していました。きゅうりの生育ゾーン周辺のCO2濃度を高めるため、CO2施用のダクトを足元と胸の高さの2段に設置するほか、外気導入型の暖房機を活用し天窓換気をなくすことで、CO2濃度を外気（400ppm）以上に維持する工夫がなされていました。

生産者からは温度管理やかん水方法について多くの質問が出るなど、活発な意見交換が行われました。



【視察先の園主から説明を受ける部会員】

5 【椎葉村】夏秋ミニトマト優良園地で現地検討会を開催

25日に生産者7名、関係者2名が参加し、村内3か所のミニトマト園地で現地検討会を実施しました。課題となっている灰色かび病害対策について、品種による発病程度の差異や微生物農薬（ボトキラー）のダクト散布について現地で状況を見聞し、椎葉駐在から、発病による損害額と導入コストの比較資料で推進を図ったことで、導入を見据えた活発な情報交換につながりました。

あわせて、それぞれの園地で高温対策の優良事例や、養液栽培での肥培管理のコツなども活発に情報交換され、若手生産者がベテラン生産者に学ぶ良い機会となりました。



【ダクト散布機導入園地で防除効果を実感】

6 【椎葉村】春の七草作付け検討会が開催

29日に、春の七草作付け検討会がJA椎葉営農センターで行われ、生産者6名、関係者4名が参加しました。

JAからは、出荷予定数量の確認があり、パックや段ボール等包装資材の値上がり分を七草販売単価に転嫁することについて皆で検討しました。椎葉駐在からは暦を配付し、病害虫対策や、ほ場衛生管理について説明を行いました。

ほ場準備や播種が徐々に始まりつつあることから、より良い商品を作るための播種時期や品目毎の施肥量などについて、生産者同士で活発な情報交換が行われました。

令和8年度産は生産者10名で約5万パック強の生産が見込まれています。



【春の七草栽培を前に暦を配付】